

(別紙4)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 10月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	1271202754		
法人名	NPO法人グループホーム かがやき		
事業所名	かがやき		
所在地	千葉県松戸市旭町4丁目1150番地の3 (電 話) 047-710-7773		
評価機関名	特定非営利活動法人ACOB A		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年10月26日

【情報提供票より】 (平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 3 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 6.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての1, 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	60,000～72,000円		その他の経費（月額）	円	
敷 金	有（ 216,000 円）				
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	450 円	
	夕食	550 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり		1,500 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	73 歳		92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新松戸診療所、千葉西総合病院、ラビット歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、静かで緑の多い環境に立地し落ち着いた雰囲気である。平成17年10月1日に開設され、“いつまでも「健やかに」「楽しく」「その人らしく」をもとに、地域の一住民としての日常生活や外出活動の支援を行なっています”という理念を掲げ、その実現に向けて運営者、管理者と職員が一丸となって懸命に努力しており、その結果9名の利用者と職員が家族のような関係になり明るく健やかに過ごしている。このホームの運営で優れた特徴の一つは、デジタルカメラで撮った写真を利用者毎にアルバムに編集し、家族への連絡や運営推進会議での報告などに使い、大きな効果を挙げていることである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の評価結果を受けて、利用者一人ひとりの身体状況チェック表の改良やアセスメントシートにセンター方式を取り入れた。これにより利用者の暮らし方の希望や状況の把握に大きな効果を上げ、介護の質の向上が図られている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員は真摯に自己評価に取り組んでいる。その結果、今後取り組んで行きたい点が10項目も上げられている。外部評価での取り組みを期待したい項目とともに、サービスの質の向上のため改善策の検討を進めて欲しい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催され議事録も作成されている。この会議では主に、ホームの運営状況を写真で紹介したり、自己評価および外部評価の結果と改善への取り組みを報告し、いろいろな意見やアイデアを出してもらっている。今後の課題として、運営推進会議のメンバーの専門性とネットワークにより利用者がより一層地域に溶け込むことができるよう、同会議の支援を期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等への報告は、訪問時、電話、書面で行っている。報告内容は、ホームでの生活の写真、往診記録、金銭管理、職員の異動などである。一方、ホームの運営に対する家族等の意見・苦情は、ホームにとって貴重なものとして捉え、すぐ改善し反映させている。家族は運営推進会議に出席し、意見を述べているが、それに加え家族会での家族間の連携や話し合いの場も必要と考える。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流は盛んである。ホームは、自治会の一員であり清掃やお祭りなどに参加している。また、地域の老人会活動の「生き生きサロン」にも参加している。近隣の住民やボランティアなど訪問者も多い。そのほか、小学校や幼稚園との交流も行っているが、今後の課題として、学生などの若者との交流について考えてみて欲しい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いつまでも「健やかに」「楽しく」「その人らしく」をもとに地域の一住民として日常生活や外出活動の支援を行っていきます。という理念を職員で話し合い作り上げている。地域や状況の変化に応じて作り変えている。	○	利用者の状況の変化に応じて理念を作り変えていくことは大切であり、実践されている。今後も地域やホームの状況に合わせて作り変えていってほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員は毎日の申し送り、ミーティングの中で業務を通して理念を共有してアイデア、工夫を凝らして実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは自治会の一員であり、ごみ拾いやお祭り等自治会活動に参加している。地域の老人会活動生き生きサロンにも参加している。地域の住民や小学校、幼稚園との交流もあり、日常的に自然に地域に溶け込んで生活しており、訪れるボランティア、隣人も多い。	○	地域のさまざまな人々との多彩な交流がなされているが、学生のインターンシップや実習など次代を担う若年層との交流も利用者、若者相互にとって良い機会と思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は管理者、職員に評価の意義や活かし方を詳しく伝え、全員で具体的な項目の評価に取り組んだ。昨年の評価の結果を受けて、身体状況チェック表やアセスメントシートにセンター方式を取り入れた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回確実に開催している。事業所の園便りやかがやき通信、写真などで日ごろの生活の様子や外出の様子を説明して理解を得ている。評価の結果についても公表して、改善に向けた取り組みを説明し、多くの意見を参考にしている。	○	運営推進会議のメンバーの専門性、ネットワーク力を生かしさらに利用者が地域の中でその人らしく普通に暮らせるような地域へのノーマライゼーションの啓蒙を図っていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に事業所についてのパンフレット、通信などを定期的に送っている。事業所への訪問時には運営の実情を話している。市の主催する認知症サポーターや高齢者虐待などの研修などに職員は積極的に参加している。	○	市の行っている介護相談員の派遣により日常的、定期的な第三者の相談を入れることも必要と思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り、通信をはじめ、個別の写真ファイルがあり、日々の生活や外出の記録等により分かりやすく報告されている。往診記録には的確に受診時情報が記録され、金銭管理は出納帳にレシートが添付されている。家族には訪問時や電話で頻繁に連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画作成時、更新時には必ず利用者、家族の希望をうかがっており、意見を反映している。園便りや通信にも意見を求める欄がある。行事や家族等の訪問時には自然に要望が表出できるよう配慮している。	○	入居している利用者や家族等がサービス提供者に要望や苦情を直接表出することは困難なことが多い。グループホーム内にご意見箱を置くことや利用者の家族会を設け話し合いがしやすい仕組みづくりを配慮されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当初よりの職員がほとんどでなじみの関係はできている。職員の採用については近隣に住んでいることに重点を置いているので、自己都合で退職した職員もボランティアとして関係を続けている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画があり、職員の希望する外部研修にも有給で参加している。全員入社時研修を受け、日々の業務での研修、内部研修と多くの研修を実施している。研修内容は持ち帰り職員間で共有する仕組みがある。	○	運営者、管理者、職員はターミナルケアについての学習や研修参加に意欲的であり、今後の一層の取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣や他市のグループホームとの交流があり、運営者のネットワークも広がっている。千葉県グループホーム協会の会員でもあり、職員は事業者間の交流により情報をとりいれてサービスの質の向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当グループホームは1週間程度の体験入居を受け入れており、入居に当たって利用者、家族が安心して納得できるように支援している。その際には現入居者にも意見を聞いている。徐々に生活になじめるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は生活の中でできることは積極的に参加している。食事作り、買い物、洗濯、掃除などの家事や外出、畑仕事などそれぞれが役割を持って楽しく過ごしている。職員は学びあい、支えあう関係を築いており、利用者の満足度が高い。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの詳細な生活暦ファイルが作成されており、生活習慣や価値観などの根拠の資料となっている。アセスメントにはセンサー方式を使用しており、個別の利用者の思いや暮らし方の希望や意向が把握されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は担当学会議を開催し、利用者、家族の希望、意向をもとに作成している。それぞれの意見やアイデアを反映させた介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの計画に対するモニタリングは月1回行い、介護計画の見直しは3ヶ月に1回行っている。状況に変化があった時には随時見直しがされている。また月2回、カンファレンスを実施しており、最新の情報、意見、アイデアを見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者は毎週介護予防の体操の指導を受けており、地域住民に新聞折込や市の掲示板を利用して案内を出している。往診医、看護師による医療の連携や福祉車両による外出、知的機能保持訓練など多彩であり、日常的に近隣住民との交流の機会も多い。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の馴染みの医師との関係は続いており、家族とともに通院している。その他利用者、家族の同意得て往診医の受診を受けている。看護師により往診記録が記され、利用者、家族にて報告されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後の入居者の重度化に備え、重度化した場合における指針を利用者、家族に説明し、同意が得られている。最後の看取りについては往診医、看護師、職員間では繰り返し話し合いを行い全員で計画を作り、方針を共有している。	○	ターミナルケアの実施については医療との連携が不可欠であるが、幸いにもよき往診医に恵まれ、学習についても意欲的である。継続的にできること、できないことの検討を重ね、看取りについて先進的に取り組まれている他の事業所との交流、研修も考慮されたい
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は研修や会議により基本的なプライバシーの保護について徹底して習得しており、実施している。地域に配布する園便りや通信について利用者、家族の写真等掲載の意向を細部にわたって確認し、利用者、家族の署名捺印をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやペースを大切に、職員がそれぞれの利用者の生活に合わせるようにしている。外出等活動内容に合わせて職員をシフトしており、各利用者の希望、を詳細に調べ、対応している。	○	今後、重度化により状況の変化が見られた時の利用者への対応について配慮されたい

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好調査を実施して利用者の最も楽しみである食事に重点的に取り組んでいる。利用者の満足度も高い。食事の準備、調理、盛り付け、配膳、下膳等利用者は役割を持って職員とともにやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴日を設けている。利用者は体調に合わせて、自分の好きな時間に入浴を楽しんでいる。羞恥に対しても同性介護で介助している。	○	入浴時間、体調、順番等については利用者の希望で行われているが、入浴日としては週3日で実施されている。入浴回数として利用者毎の希望が充分満たされているのか、季節による意向調査の実施を検討されたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で一人ひとり馴染んだ家事の役割や楽しみごとを状況に合わせて支援している。体で覚えこんでいることを思い出すように職員は根気よく、引き出し、日々の関わり方、ケアの仕方を学んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は運営理念の一つであり、積極的に行っている。記録として個人ファイルに多くの写真が記録されている。市内、県内はもとより、福祉車両で東京まで足を延ばされている。日常的には散歩を頻繁に行っており、地域住民との交流も活発に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放的で近所の住民や家族が自由に訪問できるように鍵をかけていない。利用者も自由に外に出ることができ、職員は見守っている。ドアに鈴をつけて職員が確認できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を年2回全員で行っている。グループホーム内でも月に一回程度行っている。災害マニュアルを用意し、避難経路も図式化して示している。備蓄については水、食料、医薬品など用意されている。連絡先は携帯電話に入力している。	○	災害に備えていろいろな取り組みがされており、高く評価できる。連絡先一覧表については携帯電話を使うなど機能的であるが誰もが確認できるよう一覧表として情報を共有することも必要と思われる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の内、栄養士が2名おり、個々の利用者に応じて栄養バランスや量を考慮している。飲み物は好きなものを選ぶように配慮している。全員の栄養摂取、水分摂取が一目で分かり、身体状態も把握できる便利なチェック表が法人独自に考案されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気のホームであり、共有の空間も普通の家という感じである。季節の花や音楽が居心地のよさを醸し出している。日当たりがよくカーテンなどで不快な光をさえぎるように配慮している。	○	玄関等、少し殺風景な感じである。グループホームの理念の掲示にももう少しアイディアを加えていただきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族で相談して馴染みの家具や持ち物を配置して暮らしの継続を図っている。意思の疎通の難しい利用者にも家族と相談し、配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。